

財政状況をお知らせします

28年度の決算状況

【問合せ】財政課
☎(740)1130

一般、特別会計とも黒字
28年度は一般会計が約3億1000万円の黒字、特別会計も全体で約13億2000万円の黒字を確保しました。一般会計の決算規模は、歳入が約521億円、歳出は約517億円。27年度と比べ、歳入は約41億円、歳出は約40億円の減少となっています。

歳入の減少は、教育費での学校耐震化終了や、消防費で旧松山浄水場跡地、土木費で花屋敷団地建替用地の購入費がなくなったことが主な要因です。歳入の減少は、プレミアム付き商品券などの事業終了で国庫支出金が、また、学校耐震化などの大規模事業終了で市債が減少したことなどが主な要因です。

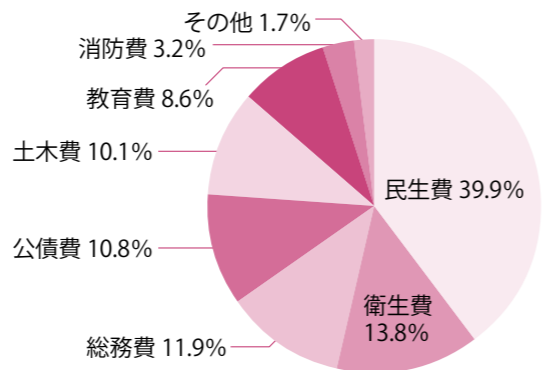
歳入歳出の決算状況

区分	歳入決算額		歳出決算額		歳入・歳出差引額 C(A-B)	翌年度に繰り越すべき財源(※) D	実質収支額 C-D
	A	B	B	C(A-B)			
一般会計	520億7,605万	516億7,463万	4億142万	8,942万	3億1,201万		
特別会計	国民健康保険事業	206億3,779万	196億3,306万	10億473万	0	10億473万	
	後期高齢者医療事業	29億3,773万	28億5,333万	8,440万	0	8,440万	
	農業共済事業	557万	557万	0	0	0	
	介護保険事業	116億1,337万	113億7,840万	2億3,497万	0	2億3,497万	
	用地先行取得事業	17億1,143万	17億1,137万	7万	7万	0	
	中央北地区土地区画整理事業	21億5,617万	21億5,595万	22万	22万	0	

(注)端数処理のため、各項目の差引額の数値が一致しない場合があります(以下の表も同じ)
※28年度に収入済みのものうち、29年度に繰り越す事業に充てるための財源

一般会計歳出

歳出で最も大きな割合を占める民生費の主な事業は、生活保護の支給や障がい者総合支援などがあり、新規事業として市立認定こども園の整備に着手しました。

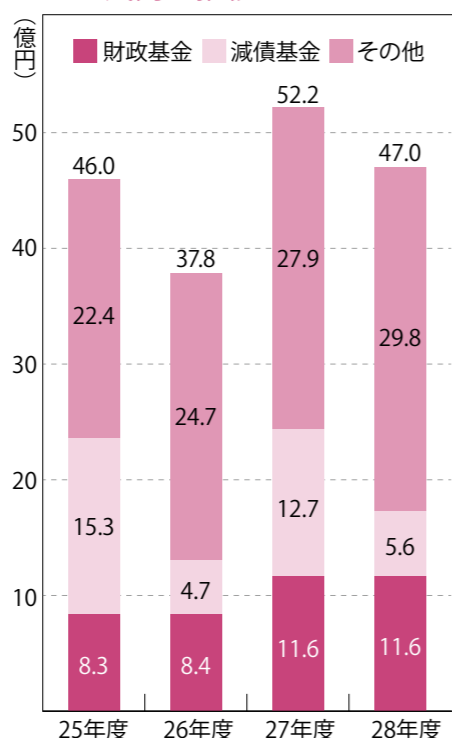


市債残高の状況と基金残高の推移

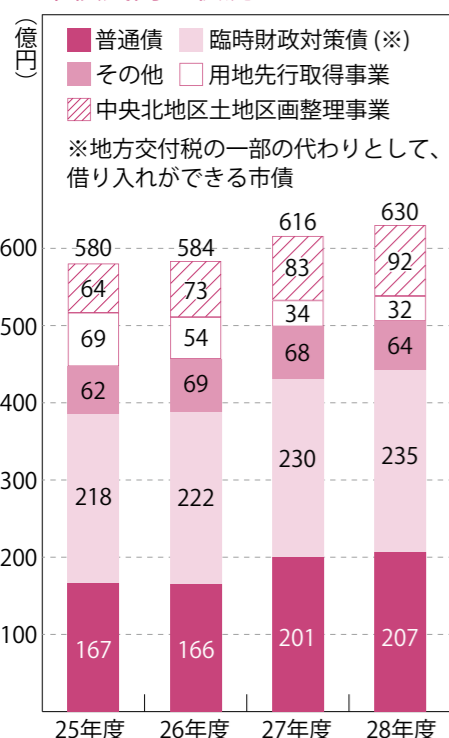
「普通債」の増加は、市民体育館・運動場や矢野野線の整備などにより増えています。また、特別会計の「中央北地区土地区画整理事業」は、事業の進捗によって、残高が増えています。

基金は一般家庭という貯蓄にあたり、28年度の基金残高は、市債の返済や基金の目的に沿って活用したため、減少しています。

基金残高の推移



市債残高の状況

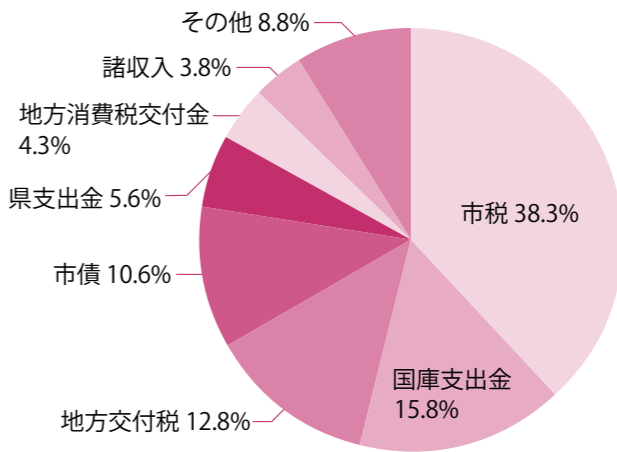


一般会計歳入と市税収入の推移

一般会計歳入の内訳
歳入の約4割を市民の皆さんが納める市税が占めています。

次に割合の多い国庫支出金は、特定の事業を実施するために、国が使い道を限定して交付するものです。また、地方交付税は、自治体の財源不足や自治体間の財源の不均衡などを調整するため交付されるものです。

市債は事業を行うため、国や金融機関などから借り入れるお金です。



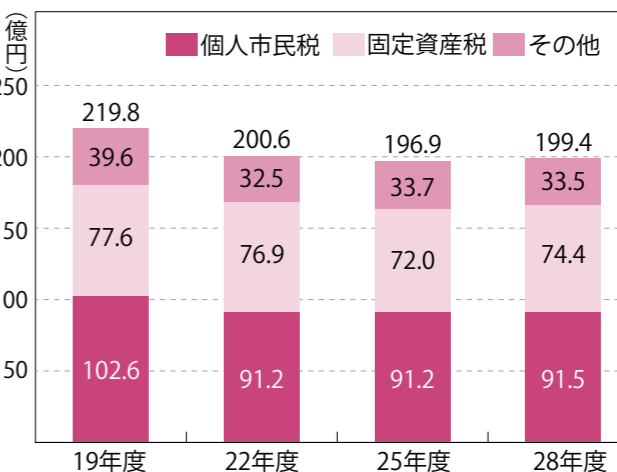
市税収入の推移

市税収入には市民税と固定資産税の他、軽自動車税や市たばこ税などがあります。

その中でも、個人市民税と固定資産税が約8割を占めています。

現在、税収はほぼ横ばい状態が続いています。

個人市民税の割合は市税収入の約半分。今後、少子高齢化などで、働く世代が減ることが予想されますので、市税収入は減少する見込みです。



財政状況の今後の見通し

市の財政状況は、歳入の根幹となる市税の増収を期待できない状況が続きます。歳出では、公債費(過去に借り入れた市債の返済)が減少傾向にあるものの、それ以外の毎年必要な事業費や人件費は、増加傾向にあります。

このままでは、今後もこれまでと同程度の歳出が必要になると見込まれるため、徹底的な効率化を行い、歳出を抑制していかねばならないと考えています。

今後は、総合計画のめざす「都市像」であり「ふれあいささえあい輝きつなぐまち」を実現するための事業を進めるとともに、持続可能な財政運営に向けた取り組みを強化してまいります。

なお、決算の概要や「歳入歳出決算書」、決算の分析をまとめた「決算成果報告書」は、市役所2階の市政情報コーナーと市ホームページで公開しています。